滋賀森林インストラクター会

会報・第 11 号　　2012 年 10 月 1 日

高島市朽木おにゅう峠の紅葉

目次

１．～いま、森林インストラクターとして思うこと～　……P2～P3
　滋賀会設立１５周年を経て　　会長　浅香　剛
２．～全国研修会「今須択伐林と薬草の里伊吹山をめぐる」～　……P4～P7
　開催結果報告　　水田　有夏志
３．～長浜市の市民講座に参加して～　　佐々木　建雄　……P8
４．～森林セラピーからみた森林の活用～　　清水　徹男　……P9
５．～シリーズ・気になる木アラカルト～　……P10～P11
　第６回　魅力の街路樹を考える　　中川　仁男

～いま、森林インストラクターとして思うこと～

滋賀会設立１５周年を経て

会長　　浅香　剛

昨年のわが国は、「国際森林年」として国を挙げての森林啓発活動や国民的行事を計画していました。美しく豊かな自然に恵まれた海洋国家として、また世界でも知られた森林の国としての国際森林年が、あの悲惨な大震災と超巨大津波によって吹っ飛びました。

残念でありますが世界からは自然災害発生トップクラスの国として見られることになりました。でも、そこに住む東北人の気高い心に世界が驚嘆したのです。

岩手、宮城、福島県の沿岸部の美しい町々は、がれきの山に変わってしまった。２万人近くもの死者と行方不明者がでた。それは地獄の風景だった。変わり果てた故郷の風景を見て、私たちは呆然とたたずむしかなかった。気仙沼湾には、真っ黒に焼けただれたマグロ漁船が何艘も沈没横転していた。

しかし、その焼けただれた漁船の背後には、春を待ち焦がれる東北の森が残っていた。その森を見た時、私は「生きる力を与えられた」と思った。もしこの山がギリシャのように禿山だったら、もう生きる力さえ湧いてこないな」と思った。何もかもがなくなった残骸の町の背後に、美しい東北の森を発見した時、「まだまだ東北は大丈夫だ、かならず、みごとに復興する」と思った。「国破れて山河あり、城春にして草木深し」という杜甫の春の一節があざやかに思い起こされた。

と、日本人の、日本ならではの「森から受ける力」ともいうべき、その情景と心情が安田喜憲先生の巻頭論文にありました。(「森林環境２０１２」「震災復興と森林」)

私は、東北の被災地から遠く離れた穏やかなこの滋賀の地で、安田先生の思いを考えています。

叩きのめされ、つぶれる寸前の心の前にある森がどのように映るのか。森林の公益的機能と、よく口にしますが、生きる力が出てくる森のすごさとはどのようなものかを先生から教わりたいと思っています。

「森の大切さや役割りとは」、「日本の森林を維持保全してきた林業の働きとは」を人様に親切丁寧にわかりやすく説明し、一緒に考え理解と共感を受けることができるか、あらためて森林インストラクターの重要な任務であると思うようになりました。この課題のテキストはありません。私達森林インストラクターが皆で考え工夫して、その解説要領を手作りしなければなりません。

森林インストラクターの資格制度が作られて 21 年目です。全国森林インストラクター会が設立されて 20 年です。滋賀森林インストラクター会は１５周年を経て 16 年目に入りました。

この資格創設の大きなねらい、それは森林と林業の知識を人様に解りやすく伝えるためであったことを再確認したいと思います。その知識の蓄積と語りの技術研究は組織でも継続せねばなりません。

資格を生かす活用スタイル、それの表現・表示する方法も特に規則はありません。個人の活動も自由ですし、組織に参加して活動する方法もあります。

私は、この資格について 10 年足らずの経験しかありませんが、全資格者が個人で任意に活動するよりも（その楽しみもありましょうが)、やはり、組織の活動で、組織による研鑽

研究のもとに、日本の社会にお役にたつ活動を目指す方が世に評価されると見ています。
　そこから生まれる社会貢献の活動を発展させて働くのが望ましいと考えていまし、そのやりがいも大きいと考えます。　滋賀会もその目的で存在していますので、今後の会運営にあたっても、会員各位の積極的な参集・参加を、そして協力・協働の取組について、ご理解ご協力をお願いする次第です。

以上

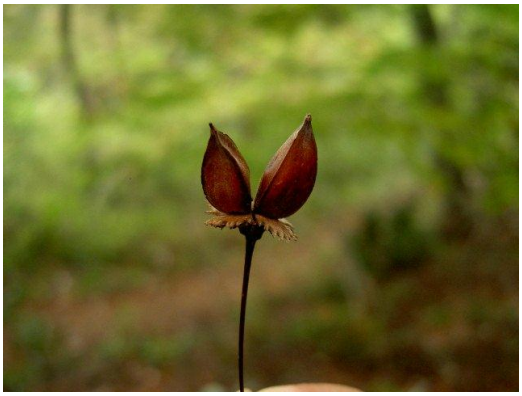
～アルバム～　昨年秋のはごろも塾から（余呉菅山寺の森）

エリマキツチグリ

ツチアケビ

ハウチワカエデ

ツクバネ



イヌブナの堅果

フチドリベニヒダタケ（？）

今年度は 10 月 14 日（日）開催予定です。お忘れなく

～全国研修会「今須択伐林と薬草の里伊吹山をめぐる」～

開催結果報告

水田有夏志

平成２４年８月４日～５日、森林インストラクター岐阜（以下「岐阜会」）との共催により、北は山形から西は福岡まで５１名の参加のもとに全国研修会を開催しました。この研修会は昨年度、台風１２号の本州上陸により中止を余儀なくされ、いわば二年越しに実現したものであり、また、二つの地域会の連携による開催という画期的な試みでもあります。以下に開催結果の概要をご報告します。

１ 開催までの経緯

H22.12.28　全国会へ平成 23 年度研修企画概要書を提出
H23.4.16　両会による第１回打合せ（かみいしづ緑の村公園）
H23.6.5　両会による第２回打合せ（伊吹薬草の里文化センター）
H23.8.6　現地下見を兼ねた研修会（伊吹山、今須択伐林）
H23.9.2　台風１２号の上陸により中止決定
H23.11.8　全国会へ平成 24 年度研修企画概要書を提出
H23.11.23　石徹白研修会(岐阜会呼びかけ)。昼食時、打合せ。
H24.4.21　はごろも塾（滋賀会呼びかけ）。終了後、打合せ。研修会場（豊公荘）の下見。
H24.7.29　現地下見を兼ねた研修会（伊吹山、今須択伐林）
H24.8.4～5　全国研修会を開催

２ 研修内容等について

（１）スタッフによる準備・受付等

一日目、１０時半に関ヶ原町役場に両会スタッフが集合。猛暑の中、前年度の資料と今回の資料を差し替える作業で、抜き取る必要のない資料まで抜き取ってしまったりして混乱。しかし何とか間に合ってやれやれ･･･。その後、買い出し班と受付班に分かれました。

三々五々、関ヶ原駅に集合する参加者に資料、名札、水などを配布。出発１０分前の時点で９名もの参加者が未到着。やきもきしましたが、遅れるとの電話連絡のあった１名を除いて全員集合。予定どおり１２時半にバスは出発・・・！

関ヶ原駅前での受付の様子

（２）今須択伐林にて

今須に到着後、さっそく始まったのがヤマビル忌避剤の塗布作業。あたりに忌避剤の臭いが漂う中、岐阜会の河原さんの司会により、川尻岐阜会長が歓迎のあいさつ。続いて、川尻さんと山本晃治さんによる今須林業やぶり縄、鉈などの道具についての説明に参加者は熱心に聞き入っています。話が終わると、山本晃

治さんがぶり縄を使って木に登り、見事な枝打ちの実演に続いて、あっという間の「逆さ降り」に参加者一同、大興奮、大歓声です。

次に班に分かれて参加者がぶり縄体験。縄のかけ方が分からずに樹上でパニックになったり、縄がゆるんでずり落ちたりで、なかなか名人のようにはいきません。続いてスギの大径木林に移動し、森林蓄積や木材市況、今須の最近の林業事情などの説明がありました。

ぶり縄を使っての木登り・枝打ち実演

逆さ降りの実演
（写真のトリックではありません、念のため）

（３）豊公荘にて学習会

豊公荘でチェックイン後、大広間で学習会を開催。まず、岐阜会の川尻会長から林業の歴史や森林文化等について、また滋賀会の小西さんから伊吹山の植物についてのミニ講座がありました。写真や絵図など用いた講座はわかりやすく、参加者は興味深く聞き入っていました。小西さんの伊吹山の説明は、翌日のお花畑での観察に非常に役に立ったとの声があり好評でした。

（４）懇親会および二次会での交流

豊公荘の食堂において、千葉会の寺嶋さんの乾杯発声により懇親会が賑やかに始まりました。猛暑の中で体を動かした後なので、ビール瓶が次々と空になっていきます。

続いて、滋賀会の中川さんの司会により各地域ブロックごとに参加者が自己紹介。森林インストラクターにはユニークな方が多く、ユーモアを交えた活動報告やお国自慢で盛り上がりました。

司会の中川さんの仕切りのうまさも光っていました。

乾杯で始まった懇親会

中締めの後、大広間に移動しての二次会にも多くの方が参加。郷土からの差し入れもあり、大広間のあちこちに話の輪ができて、貴重な情報交換の場になりました。さすがに１２時に近づいたので、しぶしぶお開きにしたほどでした。

（５）伊吹山遊歩道にて

二日目も下界は好天でしたが、山頂へ近づくにつれて雲行きが怪しくなってきます。山頂駐車場はガスに巻かれ、風も吹いて寒いほどです。

参加者は４班に分かれ、小西さん、平田さん、佐々木さん、水田がリーダーとなり、中央遊歩道からお花畑の植物を説明していきます。シモツケソウ、ルリトラノオなど、前週の下見の時よりも花の種類が格段に増えており、まさに百花繚乱に参加者からは歓声が・・・。

ガスのかかった伊吹山遊歩道

予定よりも早く山頂に到着し、昼食、記念撮影の後、東遊歩道を下っていきます。前週にはなかったイブキトリカブトの花も見られ、参加者の満ち足りた表情に、二年越しの準備の苦労も吹き飛ぶようでした。

（５）閉会式

関ヶ原町役場において、浅香会長から多数の参加と無事に終了できたことへのお礼、二つの地域会が連携して開催された意義などを述べられ、二日間にわたる研修会の幕を閉じました。

浅香会長による閉会のあいさつ

３　全国研修会の成果

今回の研修会の成功の秘訣は何よりも事前の周到な準備作業であり、これらを通じてイベント開催のノウハウが修得できました。また、両会の合意形成に時間を要したり、連絡調整に混乱が生じたりする場面もありましたが、これらを通じて両会の人的交流が生まれ、相互に研修会の呼びかけを行うなど、両会の絆が深まりました。さらには現地下見などを通じ、伊吹山、今須、石徹白、菅山寺などに関する知見を深めることができました。滋賀会にとって二度目の全国研修会の経験は大きな財産となり、この経験を今後の当会の運営や活動に活かしていくことが重要であると感じました。

打合せや現地下見から準備、当日の運営までを一体となって進めていただいた岐阜会ならびに滋賀会の役員、会員の皆様、そして昨年度に続いての開催にご理解、ご支援をいただいた全国会事務局に本誌面をお借りして心よりお礼申し上げます。

伊吹の花オンパレード

シシウドにとまるイチモンジチョウ？

コオニユリ

シモツケ

メタカラコウ（黄）、イブキトラノオ（白）

～長浜市の市民講座に参加して～

事務局　佐々木建雄

長浜市役所主催の「はじめての森づくり講座」が、今年初めて市民講座として開講されました。６回続く講座のうち、８月１１日（土）に実施する、その第２回目「先人に学ぼう！比叡山」の講師を、滋賀会で受けてもらえないかとの打診がありました。

役員会に諮ったところ、全員が異口同音に「やるべし」で受諾を即決しました。

これまで、自治体からの事業受託は、滋賀県の新緑の集い２件（西部・南部森林整備事務所主催、中部森林整備事務所主催）でしたが、市役所関係からの受託は今回が初めてです。折角、滋賀森林インストラクター会を指名いただいたのですから、こうした要請には積極的に応えて社会の役に立ち、当会を認知していただく絶好の機会にすべきではないでしょうか。

せりあい地蔵の前でしばし休憩

受託した講座の内容は、比叡山・横川の元三大師御廟からスタートして、東塔までの行者道を歩きながら、比叡山の自然や歴史を解説し、かつ樹木観察を行うというもの。

受講者は１８名で、滋賀会は浅香、小西、清水、佐々木の４名が対応しました。

当日は結構暑く、横川～東塔という長丁場であるため、若干体力面の心配もありましたが、そこはよくしたもの。峰道レストランに着くと同時に雷と共に豪雨襲来。歩行はそこで打ち切り、昼食をとった後、バスで西塔のにない堂に移動し、比叡山の僧侶・磯村さんから常行三昧の話と、その一端を実演してもらうことになりました。

玉体杉でまた休憩

普段滅多に見られないものを見ることができ、これも比叡山というパワースポットでの、見えない力が作用したのでしょうか。今回の機会を与えて下さった、長浜市役所さんに紙面を借りてお礼申し上げます。

～森林セラピーからみた森林の活用～

清水徹男

ストレスが多い現代社会の中で、ストレスから心や身体を壊す前に、森林の中を歩くことを通して、リフレッシュ（自分をとり戻す）やメンタルヘルスの改善（心と体の健康維持増進）をしようとするもので、企業の福利厚生としてまた行政が行なう市民社会福祉の一貫として取り組みが図られているもの、これを「森林セラピー」と言うと私は理解しています。「森林セラピスト」とは日本語で言うなら「森林健康指導士」と訳されるのかなと思います。統括している森林セラピーソサエテイが、癒し効果・森林浴効果を科学的に検証・実証し認定されたセラピー基地を根拠地にして、来訪者を案内し、心と体の健康維持増進を図るための補助と助言を行なうのがセラピストの仕事になります。

現在、森林セラピー基地として全国に 48 箇所ありますが、毎年 5 箇所ほどずつ増えているようです。第一号認定基地は長野県上松町信州赤沢自然休養村です。私は高島市新旭町在住ですが、高島市は唯一 2008 年 4 月びわこ水源の森森林セラピー基地・ロードとして認定を受けています。私は本年セラピストの学科試験に合格したところで、これから実習を受けて資格を与えられるのは来年 1 月からとなります。森林セラピストの人数は 2012 年度現在、全国には 441 名、滋賀県には 4 名います。

活動中の筆者（左から２人目）

高島市では 2009 年から水源の森案内人養成講座を開講して市民から案内人を募集・登録していますが、私は 2010 年の受講生で市の HP に登録しています。

登録して 2 年が経過しましたが、一度も案内の要請を受けたことがありません。これが現状です。森林を歩くことが森林浴であり、木陰の冷ややかな空気・木漏れ日の色合い・谷あいのせせらぎ・風の葉を揺らす音・展望所からの開けた景色など、何も今さら言ってもらわなくとも森林浴効果は自明の理ではないか、セラピストは来訪者に補助・助言をするのが仕事というが具体的には一体何をするねん。ハイキングや登山する人・キャンプをする人は多くいるけれど、森林セラピーを主目的に来訪する人はほとんどいないというのが現状かなと自分なりに分析しています。だから、行政とは無関係に知り合いや同じ区内に住む好きそうな人に声かけをしたり、公民館のｳｵｰｷﾝｸﾞ教室の人たちをそれとなく案内してみたりと個人的な活動くらいです。なかなか活動の広がりに結びついていないことの原因には、私の個人的な力量不足も関係していると思っています。本年 10 月にはセラピスト二次試験の実習があるので、講師や同じ受験生から知恵を拝借してきたいと希望しています。

森林セラピーを目的にした来訪者がほとんどいない現状の打開策として、市行政では、うつ病対策の一環としての活動を検討していくようですが、今のところ余り動きはありません。企業や団体との連携で活動の道が開けるのかとも思いますが、補助・助言をするセラピストの精神疾患に対する更なる専門性が求められることであり、活動できるセラピストの人数は大幅に制限されてくると思われます。

以上、現状と課題というようなお話になりました。森林セラピーはまだまだこれからの取り組みです。

—シリーズ・気になる木アラカルト—

第６回

魅力の街路樹を考える

中川仁男

道路沿い植えられた街路樹。地域の景観とマッチして美しい街路樹を見ると感心する。県内にもそれぞれの地域に様々な樹種の街路樹が見られるが、本当に見応えのあるものを探すとなると、なかなか難しい。

そんな中、私が街路樹として魅力あるものとして映る県北部地域３箇所の街路樹をそれぞれ観光、健康、景観という３Ｋの視点で紹介してみたい。

なお、桜の並木は県内どこにも見られるが、花の咲く時期だけがクローズアップされて景観や緑陰といった機能では、あまり取り上げられないので、今回あえて取り上げなかったので、ご了解いただきたい。

（１）観光スポットしての街路樹

【マキノのメタセコイヤ】

なんと言っても高島市マキノ町のメタセコイヤ並木だと思う。

「新・日本の街路樹百景」に選ばれ新緑、紅葉、冬景色と年間を通じて絵になる。

樹形の特徴をそのまま活かして、何も遮るものはなく、のびのび育っている。

マキノピックランドを貫通する田舎の景色の中に２Ｋｍに渡って約５００本が植えられている。

韓流 ブームの火付け役となった『冬のソナタ』の並木道に似ているということで、多くのカメラマンがやってきたり、観光スポットとしても人気が高まった。

今や、滋賀県の観光パンフレットにも登場する、滋賀県を代表する名所である。

（２）市民の憩いの場としての街路樹

【芹川のケヤキ】

彦根市内の芹川沿いの堤防に植えられたケヤキ並木を推薦したい。

もともと、彦根の城下町をつくる際、芹川の付替えの堤防強化のために植えられたと言われている。

両側の堤に植栽されており、右岸の車道のケヤキは、車の通行に支障をきたすほどになっており、何度か伐採の話が出ている。しかし左岸の歩道側に植えられているケヤキ並木は市民の散歩、ジョギングのコースとして真夏の昼過ぎでもほんとに涼しさを求めて吸い寄せられる癒しの場所である。

ケヤキ並木として紹介されることが多いが、ケヤキは 100 本あまりで、同じニレ科のエノキが本数としては多い。

市内にあるため、幹や枝はその時々に剪定され、樹高はそれほど高くはないが、太いものは４ｍを超えるものがあり、その歴史を感じさせる。

（３）街の景観にマッチした街路樹

【官庁街のクスノキ】

東近江市役所周辺に植えられたクスノキの街路樹が、官公庁の建物とマッチする形でうまく溶けこんでいる。ここも「新・日本の街路樹百景」に選ばれている。

旧八日市市内の都市計画の中で植栽されただけあって、歩道も広く建物との距離感もバランスがよく、植栽の配置も考えられている。

他の街の駅前通りによく見られるゴチャゴチャ感がない。

この通りは八日市駅から市役所さらには東部の御河辺神社にまで直線に延びる約２㎞の内、クスノキの大木が見られるのは市役所周辺の３００ｍほどの両側１００本ほどである。

現在、私はこの道路を通って通勤しているが、夏の日差しを遮る緑陰の恩恵をあずかっている。

クスノキは常緑樹で、落葉は 5 月頃なのだが、赤みを帯びた新緑もまた美しい。

編集後記

会報第 11 号（2012 年上半期号）をお届けします。

いつも編集にあたってはパソコン操作がうまく行かず、まごまごしているうちに時間ばかり経過してイライラ、というパターンだったのですが、今回から若手の強力助っ人が編集に携わってくれることになりました。新しい感覚で、紙面づくりをしてくれるものと期待します。では、新編集者の藤田さんを紹介します。会員の皆様のご協力、よろしくお願いいたします。（佐々木）

紙面では、初めまして。新たに編集作業に携わらせていただくことになりました藤田です。よろしくお願いいたします。

お彼岸近くまで続いた今年の猛暑もやっと終わり、いよいよ野外活動を本格化させる時期になってきました。私事ですが、10 月の３連休には、岐阜会との合同研修会の場となった石徹白近くにある、福井県前坂キャンプ場で、ゆっくりと焚き火を楽しみながらキャンプをする予定です。焚き火の上で二日間燻したイノシシ肉は、ウイスキーと合わせるのが最高です。

この秋も、様々な人たちに森で過ごす楽しさを伝えられたらな、と思います。

（藤田）